

Youth Manna

マルコ1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/9/5(月)

ヨハネ19:17-30

イエスはゴルゴタで、通りすがりの人たち、祭司長、律法学者、長老たち、十字架につけられた強盗…沢山の人に嘲られた(マタイ27:39-44)。これらのことの後、イエスは「完了した」と言われ、霊を渡した(30)。これは一体どういう意味なんだろう？

★1ペテロ2:24→キリストは自ら十字架の上で、私達の罪をその身に負われた。それは、私達が罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された→By his wounds you have been healed.

英訳を見ると完了形で書かれていることから、「イエス様の十字架の死によって、私達の癒しは既に完成した」ことがわかる。私達は地上で、罪を犯す者であることに変わりはないけど、私達はもう既に日々の罪が赦され、癒された者であるという「事実」を受け取る！もし今、その事実を受け取るのが難しいと感じている君は、受け取れるように祈ろう！

2022/9/6(火)

ヨハネ19:31-42

イエス様は十字架で死なれた後、どのように埋葬されたのだろうか。

十字架刑の残酷さは、できる限り壮絶な苦しみの時間を引き延ばすことにあった。ユダヤ人たちは、律法(申命記21:22,23)に従うため、脚を折って取り下ろしてほしい(その日の内に死なせてほしい)とピラトに願い出るが、イエス様はその時すでに死んでいたため、イエス様の骨は一つも折られなかった。そして、ニコデモが献げた没薬の量や、アリマタヤのヨセフによって用意された新しい墓は、死刑囚には異例の手厚いものだった。

今日の箇所から、イエス様に対する天の父の愛をどのように見ることが出来るだろうか？イエス様の十字架に感謝しつつ、天の父の愛が自分に対しても完全であることを覚えよう！

2022/9/7(水)

ヨハネ20:1-10

この箇所は「イエスの復活の朝」の場面である。しかし、喜びではなく、イエスが十字架で犯罪者として処刑されたという絶望の悲しみの中から始まった。マグダラのマリアたちが墓にやってきたが、あるはずの遺体はなく墓は空っぽだった。マリアには復活の期待はなく、落胆した。マリアの言葉を聞いたペテロともう一人の弟子ヨハネは墓に走っていった。

墓に到着した二人は、目の前の状況を「見て、信じた」。ただ、「彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していない」く、信じた内容は曖昧だった。

しかしこの後、彼らは復活のイエスと出会い、この体験が結びつき、宣教者となっていく。無意味な体験はなく、神はそれらを通してみわざをあらわしてくださる。

2022/9/8(木)

ヨハネ20:11-18

イエスの遺体が無くなっているのを見てマリアは墓の外で悲しんでいた。それは遺体がどこかに移動させられたと思ったからである。

そして御使いに話しかけられて普通に受け答えし、そのあとイエスに話しかけられても気づかずに普通に受け答えした。

たくさんの奇跡や業を見たマリアもそして弟子たちも本当に復活するとは誰も思っていなかったのである。しかしそのあと霊の目が開かれてイエスだと理解し、弟子たちに主の言葉を伝えるという使命を告げられる。(17.18)

2022/9/9(金)

ヨハネ20:19-31

▶弟子たちは鍵をかけて部屋に集まっていた。恐れていたからである。しかし、そんな鍵のかかっていた部屋の真ん中に、いつの間にかイエスが立っていた。

▶「平安があなたがたにあるように。」とイエスは言われた。イエスは十字架にかかる前、弟子たちに「平安を残す」と言われていた(14:27)。今まさにイエスの十字架によって罪赦され"神と和解できる"という平安が与えられたのである。

▶一方、その場にいなかったトマスは傷に触れば信じるとすねていた。そんなトマスの疑いにもイエスは寄り添われた。結果トマスは、触って信じたのではなく見て信じた。現代の私たちは見ずに信じる者たちである。聖書を開き続け、御言葉から受け取る。

2022/9/10(土)

ヨハネ21:1-14

イエス様は漁をして何も獲れていない弟子たちのところに、復活した姿で現れたね。その場所は弟子たちが初めてイエス様にあって弟子になるスタート地点でもあったんだ。

ずっと従っていくと決めた場所で、裏切って逃げてしまったイエス様に再び弟子たちは会った。それでもイエス様は疲れた彼らに朝ごはんの準備をして、もう一度立ち直れるように愛を示したね。私たちの従えなかったことも、イエス様は変わるように愛をもって待っていてくださっているんだ。今日自分の中で変えるべきことはあるかな？示されたことをやってみよう！

2022/9/11(日)

ヨハネ21:15-25

みんなは愛しているのにその相手が傷つく言葉を言ってしまったことはないだろうか？そのような体験は誰もが味わっている。ペテロもそのような後悔が拭いきれてはいなかった。

イエス様は「ヨハネの子シモン」と正式な呼び名で語りかけ、過去に言っていた傲慢が打ち砕かれたペテロの恥を癒そうとされた。そして主の羊を飼うようにという命令を三度繰り返しました。これはペテロが自分の弱さを知った今だからこそ、イエス様はその使命を確認された。過去と向き合いながら、イエス様のことばに応答して「愛します」と答えるたびに、ペテロは深く癒された。それと同時に、羊を飼うという主のための働きが、強さではなく、弱さを自覚し、主に抛り頼むところにあることも学んだ。私たちも常に自分の罪を悔い改め、繰り返し神様を愛し直し、自分の生活を神様と共に生きよう。